

総合内科

【診察科概要】

部長 岡本 勝 (おかもと まさる)
医師数 常勤医師 2名(専攻医を除く)
資格等 日本内科学会認定医・総合内科専門医 2名
日本内科学会指導医 2名
日本プライマリ・ケア学会 認定医・指導医 1名
他 複数の資格あり

近年領域別専門性が高まるにつれ、簡単な初期対応や全身管理ができないといった問題が生じています。本来医師はだれでも全身の評価を行い、初期対応や全身管理をしつつ専門科へのコンサルトができる能力を持つことが望まれます。総合内科研修では、領域別専門医であっても有すべき内科的基本診療能力の習得とともに、プロフェッショナリズムやジェネラルマインドの涵養を目指します。

当院では鳥取大学の総合内科専門医および総合診療専門医研修プログラムの連携施設として、様々な健康問題を包括的にマネジメントして地域医療を実践できる医師を目指すとともに、当院の特徴である高度専門医療を活かした経験を積むことができます。

具体的には高齢者医療や不明熱精査なども多いですが、他科入院患者の全身管理、内科系二次救急の初療や集中治療など、急性期病院総合内科としての診療比重が高い研修です。

【研修単位取得可能資格】

総合内科専門医
総合診療専門医 他

【一般目標】

総合内科医に相応しい診療能力を身につける。すなわち診療所あるいは病院における患者の初期診療にあたり、的確な診断のもとに急性期総合病院で要求される水準の適切な治療を行う。あるいは他の専門医の診療を必要とするか否かの判断ができ、初療をしつつ適切なコンサルテーションができる。

また、患者を全身的に診療できるとともに、地域包括ケアの中で他職種の専門職と協力して最良のケアを提供できる。

【行動目標（内容・方法）】

総合内科専門医および総合診療専門医研修プログラムの定める症例経験や講習会などの修了要件を満たすよう、指導医とともに進捗管理しながら研修をする。

1. 指導医のもとで入院患者を主治医として担当し、入院から退院までに必要なすべての項目（インフォームド・コンセント、問診、検査、治療、各種書類の書き方）を指導医のもと立案施行する。
2. 患者家族および職場スタッフとの適切な人間関係で対処する能力を実践する。
3. 外来診療においては、医療面接技能の確立、各種疾患の治療法、救急医療における初期治療を実践する。
4. 学術集会に積極的に参加し、学会発表や論文作成を行う。
5. J-OSLERなどで研修管理を遅滞なく行う。

【研修概要】

総合内科研修の例

	月	火	水	木	金
午前	初診外来	午前救急	消化器内視鏡		
午後			午後救急	午後救急	
夕	隔週外来症例カンファランス	カンファランス		抄読会 カンファランス	内科カンファ

- ・主治医として入院担当を行うとともに、外来も担当します。
- ・高齢者の医療も多いですが、感染症、診断困難例、他科患者の全身管理、内科系二次救急対応の役割も担います。内科系疾患を幅広く経験してもらいます。
- ・定期カンファランス以外にも随時指導医と振り返りを行います。
- ・内視鏡など専門性の希望に応じて研修内容を検討し、その他仕事の負担感や不足する内容などを考慮して可能な限りフレキシブルに対応していきます。
- ・半年ごとの指導医評価、360度評価を行います。
- ・総合内科ではお互いに情報共有し、日々ディスカッションを行いながら問題解決できるよう、チーム医療を心がけます。